



# ナースフォーラム（看護職研修）通信

平成30年度 第2回 ナースフォーラムを開催しました！

- 日 時：平成30年11月28日（水）18時30分から20時00分
- 会 場：新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者：20名（妙高介護ネットワーク事業所に所属する看護職員、行政保健師等）
- 内 容：講義
  - ・ 冬場の感染症対策 ～標準予防策を理解しよう～  
厚生連けいなん総合病院 感染管理認定看護師 千葉 一美さん
  - 実技
    - ・ 「嘔吐物処理」のデモンストレーション



司会は企画係の丸山さん

ナースフォーラムは、平成28年度より、研修会を通して妙高市の看護職同士が、顔の見える関係づくりを深めていけるよう企画していますが、今年度の第1回では皮膚排泄ケアについて学びを深めました。そして第2回では、昨年度に引き続き、冬場の感染症対策をテーマに、講義や実技をとおして、改めて標準予防策について確認を行っていきます。

## 講義

### 「冬場の感染症対策」～標準予防策を理解しよう～

厚生連けいなん総合病院 感染管理認定看護師 千葉 一美さん

話題の感染症である「疥癬」をはじめ、これからの感染症シーズンに備えて、標準予防策について確認を行いました。



- 冬季に流行する病原微生物は各疾患ともに予防が重要で、流行前に準備が大切。
- 流行期は標準予防策を徹底する。特に手指衛生と咳エチケットが鍵。
- 標準予防策は、「感染症」でない人に感染対策をすることも含む。
- 感染を成立させないよう「感染源をなくす」「感染経路を絶つ」「宿主にならない」こと。
- 感染対策の対象者は全ての人であり、感染性のある人には疾患にあった予防策を追加する。
- 感染症とわかっても、皆で標準予防策が正しく行えていれば拡大を最小限に防げる。
- 事業所ごとに感染対策を標準的にできる職場を目指すことが大切。

## 実技① ～「嘔吐物処理」のデモンストレーション～

まずは3グループに分かれ、事業所ごとに普段使用している感染症対策グッズを用いて、防護具の着脱から、嘔吐物処理までの一連の流れを実際に行いながら、意見交換を行いました。



## 実技② ～防護具の着脱手順～

実技の後半では、嘔吐物処理後のガウンや手袋、マスクの外し方等について、司会の丸山さんより代表で実演していただく中で、千葉さんより手順ごとにご助言をいただきました。



嘔吐物の処理手順はどの事業所も良くみに  
いているけど、処理後の防護具の外し方は意  
外に難しいので、特に注意が必要！

手袋はどのタイミングで外すべき？  
ガウンの裾は、処理時に床に接触して不潔  
な状態。どう脱いたら汚染から身を守る？



### ～ グループワークから ～

- 処理袋は二重にしておくとういことがわかった。
- 長袖のガウンは着脱が困難であり、袖なしのほうが汚染していることを意識して、手洗いが徹底できることもある。
- ガウンの着脱は正しく実施しないと感染を広げる元であり、介護員や看護スタッフにも伝達していきたい。
- 毎年この時期は一度訓練しておくことが必要。
- 嘔吐物がかかってしまった場合は、かかった人の感染予防が優先であり、他の人が嘔吐物の処理をすることが大切だとわかった。
- 感染症にかかった場合の休暇取得は、事業所ごとの方針で異なるが、感染拡大を予防する上で、受診は欠かせないと感じた。

⇒千葉さんより質問に対する回答

Q: 長袖ガウンは着脱が難しいため半そでのガウンがよいか。

A: 医療機関では半そでのユニフォームが多いため、腕が汚染されてもすぐに洗えるが、施設はジャージ系が多く、衣類からの感染を防ぐことも考え、選択した方がよい。

Q: 送迎車で嘔吐があった場合、どう対応すべきか。

A: 送迎車内の嘔吐は感染率は高くなるが、窓を開け、嘔吐物を覆い、同一空間にいる時間をなるべく短くすることが大切。患者は早めに降車させ病院へつなぐこと。



標準予防策は、感染の有無にかかわらず、すべての人に適応する感染対策。その理解があれば難しいことではない。

ただし、頭でわかっても実践では、癖が出たり知識が偏ることもあるため、年に1回は自分で体験して、振り返りを行うことが大切。

感染対策は、事業所全体で標準的にできてこそ、最大の効果が得られるため、今日の研修での知識をきちんと生かしてほしい。



最後は千葉さんより講評

今年度のナースフォーラムは終了しましたが、来年度も、日頃の悩みや思いを共有したり、在宅医療・介護の連携推進に関わる現状や課題を整理することを目的に、計画を立てていきたいと思ひます。